

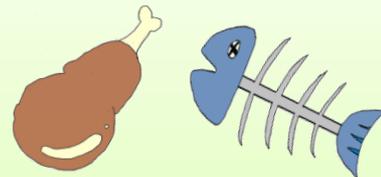
千曲市 ダンボールコンポストで堆肥作り！

困ったときのQ&A

《分解しやすいもの・分解しにくいもの》

○分解しやすいもの＝高カロリーのもの

例) 肉や魚、残飯など

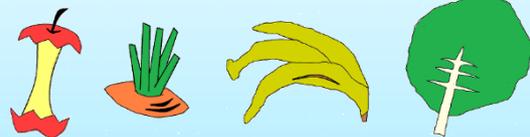


ワンポイント！

高カロリーなものは分解中に、多少のにおいが出ます。(分解が終わればにおいはしなくなります。) お茶殻・コーヒー殻などを入れて防臭したり、気になる場合は高カロリーなものの投入量を減らしてみましょう。

○少し分解しにくいもの＝低カロリーのもの

例) 野菜くず、果実の皮・芯など



ワンポイント！

細かくすればするほど分解しやすくなります。分解を早めるために米ぬかや廃食用油を少し入れると◎。

○非常に分解が難しいもの

例) 卵の殻や貝殻、骨

たけのこ・玉ねぎ・とうもろこしなどの外皮
梅干・かぼちゃの種など



○入れないほうがよいもの

例) 塩分を多く含むもの

(堆肥として使うときに塩害になる場合があるので注意が必要です。)

《こんなときはどうする？ワンポイントアドバイス》

(1) 分解が遅い・温度が上がらないとき

分解が始まると40℃～50℃前後まで温度が上がりますが、なかなか温度が上がらないときは以下のことを確認してみましょう。

①水分が足りない

水分があまりにも少ないと生ごみの分解も進みません。水や米のとぎ汁などを少し加えて水分を足してみましょう。ただし入れすぎは虫の発生原因にもなるので注意が必要です。

◇水分量の目安

「基材はしっとり、強く握ると形ができ、つつくと崩れて手に残らない」くらいがちょうどいい水分量です。逆に水分が多いときはダンボールごと天日干しにしたり、おがくずを入れるなどして調整してみましょう。

②カロリーが足りない

野菜くずばかりだと微生物が活発に働くためのエネルギーが足りない場合があります。廃食用油を1まわしや、米ぬか一握りを加えてみましょう。ツナ缶の油なども効果的です。

③外気温が低い

秋や冬など、外気の気温が低いときは微生物の働きも鈍くなります。このような時期は室内の暖かい場所に置くようにしましょう。

④混ぜ方が足りない

微生物が活発に働くには新鮮な空気が必要です。ダンボールの角の土までしっかり混ぜましょう。



(2) においが気になるとき
こんなときにおいが出ます。

①生肉や魚などを入れたとき

生肉や魚などの動物性たんぱく質を多く含むものは分解の際、アンモニアが発生し、それがにおいの元となります。お茶殻・コーヒー殻等を入れてみたり、投入量を減らしてみましょう。

②米ぬかや廃食用油、カロリーが高いものを一度に多く入れたとき

微生物が活発に働くため、一気に分解が進み急激な温度上昇とともににおいが出ますが、これは微生物が活発に働いている「活発臭」なので、順調に分解されている証拠です。



(3) 虫が発生したとき
まずは虫が発生する前の予防が大切です。

①通気性の確保

湿気が多い時期はダニなどがわきやすくなります。風通しのよい場所で壁から離して置くようにしましょう。また、ダンボールの四隅に土台等をおくとよいでしょう。

②防虫剤の設置

天然成分のダニよけ防虫剤などの防虫剤を設置してみましょう。また、フレッシュハーブ（ローズマリー、ラベンダーなど）も防虫効果があります。

③布などをしっかりかぶせておく

何もせずに放置していると虫が寄ってきてしまいます。生ごみを入れてかき混ぜた後はダンボールコンポストに古布などをかぶせて虫の侵入を防ぎましょう。

◇それでも虫が発生してしまったら…

天気のよい日に基材を袋に移して密閉し、丸1日天日干しにしましょう。ただし、何日もほったらかして天日干しにはしないよう注意しましょう。



(4) しばらく家を留守にするとき

出掛ける前にしっかり混ぜて、布をかぶせて出掛けましょう。生ごみの投入がなくても微生物はいなくなりません。帰ってきてから再び生ごみを入れて混ぜると、また分解が始まります。

(5) 白いカビが発生したとき

白いカビは糸状菌（いとじょうきん）といい、微生物が活発に働いている証拠です。気にせず混ぜましょう。

《一回でたくさんの生ごみを入れてもいい？いつまで使える？》

1日の目安は約500g（三角コーナー1杯分）ですが、500g以上が駄目なわけではありません。ただし、多めに入れた日の翌日は少し投入量を減らすなど、コンポストに負荷をかけすぎないようにする必要があります。

また入れる量や種類によりますが、おおよそ3ヶ月使えます。水分が多く、土がダマダマになってきたら交換の合図です。

《市民モニター経験者はこんな感想をもっています》

- 子どもにもダンボールコンポストのことを教えることができたのでよかった。
- 臭いもなく、虫も発生せずいい堆肥が出来た。
- 野菜くずを中心に投入したためか、臭いや虫も苦にならなかった。
- スイカの皮を入れたときに虫が発生したのでその後注意するようになった。
- 卵の殻など多く入れすぎてしまい、うまく分解しなかった。
- 生ごみがバクテリアによって形がなくなっていく様子、量が増えない様子がとても興味深く、毎日かかわることができた。

などなど…

無理をせず、楽しみながら生ごみを減らしましょう！

